

## 記者発表のお知らせ

内閣府沖縄総合事務局

平成 23 年 10 月 5 日

|             |  |
|-------------|--|
| 発 表 事 項     | 第 2 回 沖縄地方の港湾における想定地震・津波検討会を開催しました（実施報告）   |
| 発 表 方 法     | 資料の投げ込み  |
| 発 表 内 容     | <p>① 資料等の提供のみ（会議等の開催案内を除く。）</p> <p>2 会議等の開催案内</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日時</li> <li>・開催場所</li> <li>・公開、非公開の別 <input type="radio"/> 公開 <input type="radio"/> 非公開（冒頭撮影可）</li> </ul>    |
| 発 表 後 の 取 扱 | <p>発表後の取扱制限 <input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取扱制限ありの場合</li> <li>新 聞 平成 年 月 日 朝刊・夕刊から解禁</li> <li>ラジオ・テレビ 平成 年 月 日 から解禁</li> </ul> |
| 添 付 資 料     | <p>① 有 <input checked="" type="radio"/> ページ物（ 3 枚） <input type="radio"/> 無</p> <p><input type="radio"/> 冊子等（ 部）</p>  |
| 発 表 担 当 者   | 役職名： 開発建設部 港湾計画課長 氏名： 池町 円   |
| 連 絡 先       | <p>役職名： 開発建設部 港湾計画課長 氏名： 池町 円</p> <p>電話（直通）098-866-1906</p>  |

平成23年10月5日

各位

内閣府沖縄総合事務局

第2回 沖縄地方の港湾における想定地震・津波検討会を開催しました

沖縄地方の港湾における想定地震・津波の設定を行うため、下記構成員による検討会を開催した。概要は下記のとおり

記

○実施日時 平成23年10月5日(水) 13:00~15:00

○実施場所 内閣府沖縄総合事務局 3階AB打合せ室  
那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎 2号館

○構成員

|         |                    |
|---------|--------------------|
| ・津嘉山 正光 | 琉球大学 名誉教授          |
| ・木村 政昭  | 琉球大学 名誉教授          |
| ・松本 剛   | 琉球大学 理学部教授         |
| ・中村 衛   | 琉球大学 理学部准教授        |
| ・富田 孝史  | (独)港湾空港技術研究所 上席研究官 |

○今後の開催予定

|         |                |
|---------|----------------|
| ・第3回検討会 | 平成23年12月上旬(予定) |
| ・第4回検討会 | 平成24年2月中旬(予定)  |

○今回会議の位置付け

東日本大震災を受けて、沖縄地方の港湾において粘り強い防波堤の具体的な検討及び耐津波性能の照査を行うこととなったが、その前提となる想定地震の決定と、その地震により発生する津波高さの想定(津波シミュレーション実施による想定)を行うため本検討会を開催するものである。

○前回の検討会での議論

・中央防災会議専門調査会及び国土交通省交通政策審議会・港湾分科会・防災部会において議論されている、レベル1津波(発生頻度の比較的高い津波。防災を目標)・レベル2津波(最大クラスの津波。減災を目標)について検討されることが確認された。  
・明和の大津波や沖縄先島津波など過去の教訓を踏まえ、4つの活断層(プレート境界型逆断層・プレート内正断層・沖縄トラフ拡張型正断層・島弧胴切り型正断層)を考慮して、地震・津波の想定を行うべき、との意見があった。  
・想定地震・津波の設定(規模・位置等の検討)については、各委員からの報告をベースにして議論していくこととなった。

○今回の主な議事概要

・レベル1津波を引き起こす地震については、沖縄県津波・高潮被害想定調査業務委託報告書(沖縄本島沿岸域(平成19年3月)、宮古・八重山諸島沿岸域(平成20年3月))の地震(沖縄本島南東沖(琉球海溝型)、宮古島東方沖(島弧胴切型)など)をベースとすることが確認された。

・レベル2津波を引き起こすおそれのある地震(琉球海溝沿いプレート地震・沖縄トラフ地震・八重山地震(明和の大津波を引き起こした地震)別添図-1参照)については、各港湾に与える影響を検証しながら、津波シミュレーションにより防波堤の前面・背面の水位差を考慮しながら絞込みを行うこととなった。

・今後はレベル1・2津波を引き起こす地震ごとに、津波シミュレーションの入力条件となる断層の位置・長さ・幅・深さなどについて取りまとめを行うことが確認された。

問い合わせ先

内閣府沖縄総合事務局開発建設部

担当: 港湾計画課 池町

與那嶺

TEL 098-866-1906 FAX 098-861-9916

# 沖繩地方の港湾における想定地震・津波検討会 設立趣旨

## 1. 設立趣旨

東北地方太平洋沖地震及びこれに伴う津波により、東北地方の太平洋側沿岸は、これまで経験したことの無い甚大な被害が発生した。この震災を踏まえ、中央防災会議では「地震・津波の想定のある方」や「今後の津波対策の考え方」について検討がなされているところであり、また、国土交通省交通政策審議会港湾分科会においても「港湾における総合的な津波対策のある方（中間とりまとめ）」において想定津波の見直しを行った上で、防波堤等の改良や GPS 波浪計を活用した避難計画の策定などハード対策とソフト施策を組み合わせた「総合的な津波防災対策」の検討の必要性を指摘している。

しかしながら、今回の震災を踏まえた地震・津波の想定手法については十分に確立したものが無いことから、技術的指導・助言を得ることを目的に本検討会を設置し、沖繩地方における想定地震・津波の検討を行うこととした。

なお、本検討会において想定した地震・津波においては、先に設置した、地震・津波防災対策検討協議会（那覇港、金武・中城湾港、平良港、石垣港の4地区において設置）に情報提供を行い「総合的な津波防災対策の基本的な考え方」の取りまとめの一助となることを期待している。

## 2. 検討事項

- ・沖繩地方における想定地震・津波の検討（規模・位置等）

レベル1津波 最大クラスの津波比べて発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波

レベル2津波 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波

- ・その他必要事項

## 3. 検討会の開催予定（案）

○第1回（平成23年7月27日）

- ・想定地震の設定について

○第2回（平成23年9月）

- ・想定地震の設定について

○第3回（平成23年12月）

- ・想定津波について
- ・港湾の津波防災対策（素案）について

○第4回（平成24年2月）

- ・港湾の津波防災対策方針について

図-1 レベル2津波を発生させるおそれのある地震断層位置

